

意見一覧

(吾妻山・安達太良山・磐梯山火山防災協議会 合同会議)

議題

(1) 協議事項

ア 福島県の地域防災計画の修正点について(資料1-1～1-2)

項目等	委員名	意見の内容	事務局の回答
資料1-2 地域防災計画 新旧対照表 3p 防災対策の推進 4p 火山災害対策に係る 配備基準	磐梯山噴 火記念館 佐藤 公	大規模噴火時の降灰対策は重要であるので、火山灰の経験がある鹿児島市の人などをお呼びし、協議会で勉強会を開く等をしてよいと思う。 防災体制について、警戒レベルは順番に上がるとは限らないため、基準に固執せず、臨機応変に災害対策本部を設置することを事務局の中で理解することが重要だと考える。	意見については、今後の業務の参考にさせていただきます。

イ 火山活動が活発化した場合の避難計画の修正について(資料2-1-1～2-3-2)

意見等なし

ウ 令和8年度の火山防災訓練計画について(資料3-1～3-2)

項目等	委員名	意見の内容	事務局の回答
資料3-1 資料3-2	磐梯山噴 火記念館 佐藤 公	タイムラインが導入されている水害等とは異なり、火山は時間の経過に準じた現象が起きる訳ではなく、突発的な噴火などもあるため、タイムラインという考え方に疑問を持っている。状況に応じた対応を確認する勉強会はありだと思うが、あまりタイムラインに依存し過ぎない方がよいと思う。 また、ここ数年は現場での訓練を実施できていない。図上のみならず、現場での理解と顔の見える関係を作ること必要だと思われる。そのため、現場を活用した訓練を併用しながら行うことが重要だと思う。	災害の時に防災関係機関や自治体に対応すべきことは広範多岐にわたり、その中で関係機関との連携がとりにくいという問題認識があるため、災害の種類に関わらずタイムラインを策定する意義はあると考えております。 指摘の通り火山は時間に伴って状況が順に変わるものではありませんが、いきなりレベルが上がったとしても、その間で対応すべきことを省略することはまずないため、それを認識した上で対応できるか等を、訓練で検証することも重要と考えております。 実動訓練について来年は基本的に実施しないこととしておりますが、現場での検証に必要性が生じた場合は、現地確認や現場での認識合わせを実施したいと考えております。

項目等	委員名	意見の内容	事務局の回答
資料 3-1 資料 3-2	茨城大学 名誉教授 藤縄 明彦	火山のスケール感は分かっていると思っ ていても、実際には分かっている人が 多いため、山に足を運んで噴火や火 山災害でどうということが起こった か肌で感じることは重要である。 本当に切羽詰まったような状態で 動くことができるかシミュレーション を行っている位の感覚で対応を行っ てほしい。	意見については、今後の事業の参 考にさせていただきます。

エ 令和 8 年度の火山防災対策事業について（資料 4）

意見等なし

(2) 報告事項

ア 吾妻山の噴火警戒レベル判定基準等改定について（資料 5-1 ～ 5-5）* 仙台管区気象台

項目等	委員名	意見の内容	仙台管区気象台の回答
資料 5-5 吾妻山の噴火警戒 レベル判定基準と その解説	磐梯山噴 火記念館 佐藤 公	1893 年の噴火様式がマグマ噴火だ ったことについて、論文は 5 年前くら いにまとめられており、火山学会では 研究は正しかったと共通認識を持っ ている。それが資料に反映されていな いのは対応に時間がかかりすぎであ るため、産業技術総合研究所や各省 庁と連携していただき、迅速な対応 をお願いしたい。	急ぎ対応してまいります。

イ 令和 7 年度の火山防災訓練結果について（資料 6-1 ～ 6-3）

意見等なし

ウ 令和 7 年度の火山防災対策事業実施結果について（資料 7）

意見等なし

エ 火山シェルターの設置について（資料 8）

項目等	委員名	意見の内容	事務局の回答
資料 8	磐梯山噴火記念館 佐藤 公	ボックスカルバートを浄土平に設置するだけでは意味がなく、なぜそれがここにあるのかを、観光客に理解させることが重要だと考える。 シェルター内部にはハザードマップや火山の仕組みなどの展示を強く求めたい。 霧島山でそういったシェルターの設置事例があり、そこまで費用も掛からないため、シェルターが火山の勉強をする場にできるようにしたい。	今後の具体的なシェルターの仕様の参考にさせていただきます。
資料 8	北塩原村	火山シェルターが設置された暁には、現地で説明会のようなものを開いていただきたい。今後、磐梯山、安達太良山でもシェルターを設置していく上で、イメージ等を現地で直接見てみたい。	説明会について、関係機関と調整をさせていただきます。説明では漏れておりましたが、来年度から磐梯山、安達太良山へのシェルター設置について検討調整のほうを進めさせていただきたいため、御協力をお願いします。
資料 8	茨城大学 名誉教授 藤縄 明彦	設置するシェルターの仕様について、ボックスカルバートであれば噴石の衝撃には対応できると思うが、マグマ噴火を想定した場合、火災サージや横殴りに入ってくる火山灰の熱量には対応できないと思われる。 吾妻小富士のシェルターについては、半地下式を設置する場合入り口が火口側に向いてしまうため、地上式にするしかないとは思っている。	意見については、福島市と共有させていただきます。
資料 8	磐梯山噴火記念館 佐藤 公	藤縄先生の意見（上記）に関連して、基本的にシェルター設置の考え方は、小規模の水蒸気噴火による噴石等に対応するものとなっている。 マグマ噴火に伴い火災サージなどが発生した場合、当然こういったシェルターでは対応できないため、そのことを観光客が理解できるように啓発が重要である。 吾妻小富士のシェルターに関して、埋め戻し型を登山道に設置する場合、角度を 180 度変えて、かなり深く掘り込んで設置するのが基本だと考えている。	意見については、福島市と共有させていただきます。

オ 火山シェルター設置個所の変更について（資料9）

項目等	委員名	意見の内容	事務局の回答
資料9	福島地方 気象台	<p>設置個所が国立公園内にあるということで、シェルターがあまり目立たないように設置する方向で環境省と調整されていると思う。</p> <p>そうされると初めて訪れた方が存在自体をよく知らないまま、いざというときに有効活用されない恐れがある。シェルターを初めて訪れた方にもわかるように周知する上で、何か考えがあれば教えていただきたい。</p>	<p>緊急時の施設ということで、一定程度目につき、シェルターだと分かってもらえるような配慮が必要だと考えています。</p> <p>また、案内図や資材による周知も必要になるので、資材関係で御協力お願いすることがあるかもしれませんが、その際気象台様にも御協力をお願いします。</p>
資料8	磐梯山噴 火記念館 佐藤 公	<p>福島地方気象台さんの意見に関し、デジタルセンターやレストハウスの中にシェルターがどういうものなのか、どこに設置しているのか展示させ、観光客に周知徹底することが重要だと考える。</p> <p>別件で、既存の施設のシェルター化が重要だと考える。隣の県では、蔵王山でトイレを3か所、屋根を補強しシェルター化している。</p> <p>現在は建物の建て替えや新しく作る動きがあり、例えば安達太良山ではくろがね小屋がシェルター仕様になる。磐梯山であれば、山辺のほうに民間の方が磐梯山テラスという施設を作っているが、これの屋根を補強する。こういったことをどんどん指導していけば、シェルター仕様の建物が増えるため、シェルターに関しては別個に新しく作らなくてはならない、ということではないと考えている。</p>	<p>意見については、今後の事業の参考にさせていただきます</p>